

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

8
Vol.02
2026-27



統括委員長ほか 御挨拶特集

持続可能な
インパクトを
生み出そう

ロータリー特別月間
会員増強・新クラブ
結成推進月間

(一社)国際ロータリー第2770地区事務所
〒330-0063
さいたま市浦和区高砂1-2-1-116 エイパックスタワー東館1階
TEL 048-827-0022 FAX 048-827-0011





魅力あるクラブの未来を創る ～会員増強への挑戦～

(一社)国際ロータリー第2770地区
2026-27年度ガバナー

三枝 和男(大宮東RC)

7月に新年度のスタートを切ってから、早いもので1ヶ月が経ちました。日頃からの皆様の温かいご支援と情熱的なロータリー活動に、心より深く感謝申し上げます。

先月は、地区内11クラブへの公式訪問を無事に終えることができました。お忙しい中、温かく迎えてくださった各クラブの会長・幹事、そして会員の皆様に厚く御礼申し上げます。地域のニーズに寄り添い、独自の素晴らしい方針のもとで活気ある活動を展開されている姿を目の当たりにし、私自身、大きな感動とエネルギーをいただきました。

さて、8月はRIの特別月間「会員増強・新クラブ結成推進月間」です。

今年度、当地区は「会員数2,400名」の達成と維持を掲げておりますが、会員数の拡大そのものが目的ではありません。大切なのは、多様な人材が歓迎され、役割と居場所を実感できる「参加して良かったと思えるクラブ体験」をつくることです。楽しい例会やフェローシップを通じてクラブの魅力を高め、入会3年未満の会員や多様な仲間との交流を広げることこそが、確かな維持へとつながります。

ここで、皆様に一つ問いかけをさせていただきます。

「皆様の胸ポケットや鞆の中に、入会促進ツールは常にありますか」

会員増強の機会、日常の出会いやビジネスの対話の中に突然訪れるものです。一瞬のチャンスを逃さないためにも、クラブのリーフレット等の資料を常に携帯していただきたいのです。私たち自身がロータリーを楽しみ価値を実感しているからこそ、手元にあるツールが最高の架け橋となります。

そして今、地区内からは「ローターアクトやインターアクトクラブを創ろう」という力強い声が聞こえています。次代を担う青少年を育むことは未来への投資であり、私たちの大きな使命です。若い情熱と手を取り合い、持続可能なインパクトを生み出すためにも、ぜひとも実現させてください。

魅力あるクラブには自然と人が集まります。「さあロータリーを楽しみましょう！」





ロータリーの友地区代表委員

下館 貴子(浦和RC)

「ロータリーの友」については、皆様のお手元に配布されている月刊誌だということ、会員として購読する義務があるということは、すでにご存じのことと思いますが、実際に会員の皆様の中で、どのくらいお読みいただいていますでしょうか。

私は、1年間の任期を通して少しでも多くの皆様に「ロータリーの友」がとても面白く役に立つ月刊誌であることをお伝えして参りたいと思っています。「ロータリーの友」は、多くの会員の方に読んでいただけるように、記事も工夫されていますし、構成、トピックスの選び方もとても面白く、ロータリー歴の長さに関係なく楽しめる月刊誌です。また、会員からの投稿も随時受け付けています。もちろん、ローターアクトの記事もたくさん取り上げられています。

読んで楽しく、投稿して楽しめる月刊誌であることを、1年通して皆様にお伝えしたいと考えております。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



ローターアクト特別推進委員長

齊藤 敏雄(大宮西RC)

今年度、ローターアクト特別推進委員会における長を仰せつかった齊藤敏雄と申します。

RAC委員会は、それまでの青少年奉仕部門の1プログラムから2024~25年度より、ガバナー直轄の委員会として活動し、2025~26年度より、RAC部門として更なる発展を遂げています。また、2026~27年度より、再度、三枝ガバナーの直轄

委員会として、今まで以上にRIの要望及びガバナーからの期待に応えるべく活動をして参ります。

今年度も、地区補助金を利用して戴き、「セカイあそび万博in鐘塚公園」を10/25(日)に予定し、国際奉仕部門と連携し、国際貢献を念頭に、広く国内外に若者たちのバイタリティを発信し、「魅力ある奉仕」を展開していきます。

この事業は、我々RAC委員会が独自に行うのではなく、地区内13RAC・IAC・ROTEX・派遣候補生・来日学生・米山記念奨学生と合同で行い、ロータリーFAMILY一丸となり、ロータリアンと共にこの第2770地区から世界へ発信していくものとなります。

加えて、国再訪し部門との連携の一環として、韓国3750地区との共同・グローバル補助金事業への足掛かりを目指します。

また、RCとRAC、地区RACと各RACとのコミュニケーションを第一に考え、13RAC会長幹事会だけでなく、RAC会員全員対象の懇談会の開催や、現RACのスポンサークラブ同士の懇談会を企画しています。これにより、相互理解・課題解決に早期に繋がることにより、会員増強にも繋がると信じています。

刻々と変化する世界に負けることなく、逆に1歩リードした活動を考え、行動していく所存です。

ひとりでできることは、数少ないが、皆でやれば、何でもできる。この精神で邁進して参ります。

管理運営統括委員長

諸喜田 直也(八潮RC)



こんにちは、次年度、地区管理運営部門統括委員長を拝命いたしました八潮ロータリークラブより出向しております諸喜田直也と申します。

7月の新年度スタートにあたり、一言ご挨拶申し上げます。
まずは、日頃より地区運営、各クラブの活動に多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

今年度のRI会長のメッセージは「持続可能なインパクトを生み出そう」であります。このメッセージは、単なる活動の成果だけではなく、未来に長く残る価値を創り出していこうという強い呼びかけです。私たち管理運営部門は、各クラブの運営基盤を整えることで、このインパクトを支える土台づくりに取り組んでまいります。

地区方針においても、ロータリーの魅力を高めながら、多様性を尊重し、変化に適応していくことの重要性が示されています。社会が大きく変化する今こそ、クラブ運営の質を高め、会員が誇りを持って活動できる環境を整えることが、私たちの使命であると考えております。

次年度、管理運営統括委員会として力を入れてまいりますのが、クラブ行動計画(三ヶ年)の推進です。単年度で終わるのではなく、会長、会長エレクト、会長ノミニーが連携しながら継続的に進捗を確認し、クラブの未来を見据えた運営が行われるよう支援してまいります。

また、ロータリーの根幹である「4つのテスト」「中核的価値観」「行動規範」を、活動計画や日々の実践の中にしっかりと位置づけていただくことも重要な取り組みです。ロータリーの普遍的な価値観を改めて見つめ直し、誇りを持って行動する一年にしていきたいと思います。

さらに、デジタルツールの活用も欠かせません。マイロータリーの登録率100%を目指し、ラーニングセンターを積極的に活用することで、会員一人ひとりが学び続ける環境を整えてまいります。

ロータリーのブランド価値を高めることも、管理運営部門の重要な役割です。ロゴの適切な使用や広報の質の向上に努めることはもちろんですが、私たちの活動の意義や成果を、分かりやすい言葉で社会に伝えていくことが大切です。

会員一人ひとりが自らの体験や想いを通じて、ロータリーの活動が地域にどのような変化をもたらしているのかを発信することで、より多くの共感と理解が広がっていくと考えております。

人材育成の面では、RLIの取り組みを引き続き支援し、「教える」から「共に学び合う」へという理念のもと、楽しく実りある学びの場を創出してまいります。

最終的な目標は、地区内すべてのクラブが活性化し、それぞれの特色を生かしながら成長し、クラブ優秀賞の達成へとつながることです。そのために私たち委員会は、皆さまに寄り添いながら、実務面・情報面の両面で支援を続けてまいります。

結びに、今年度が地区にとって実り多く、そして次の世代へと確かなバトンをつなぐ一年となりますことを祈念申し上げます。引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

会員増強維持統括委員長

山口 恵美子(川口モーニングRC)



三枝和男ガバナーより、会員増強維持統括委員長を仰せつかりました山口恵美子と申します。1年間、よろしくお願いいたします。

ババロラRI会長はメッセージの中で、2030年までにロータリアン125万人、ローターアクター12万5千人という目標を掲げています。

そして、その会員が増えるという「成果」が、「持続可能なインパクト」になることで、今後も長年にわたり、より強くて効果的なロータリーが築かれるとしています。その会員増強維持のために、各クラブには、多様性を「迎え入れる姿勢」と「居場所」があるクラブ作りをお願いするところです。また、各クラブ内で、会長が掲げる純増目標の共有をお願いいたします。

会員増強維持統括委員会では、課題抽出・目標設定の支援、多様な会員の種類等の事例紹介、会員増強維持に繋がる交流会の実施、新たな柔軟なクラブに関する情報提供等を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

【会員増強維持統括委員会関係 2026-27年度 地区数値目標】

1. 会員数 2026-27年度 純増100名
2. 4つ以上の新たな種類・形式・モデルのクラブ設立

職業奉仕統括委員長

辻本 恵太(大宮RC)



本年度、職業奉仕統括委員長を拝命いたしました、大宮ロータリークラブの辻本恵太でございます。職業奉仕は、高い職業倫理を保ち、職業を通じて地域社会に奉仕するという、ロータリーの原点そのものです。

誤解を恐れずに申せば、ロータリーとは、職業人が同胞愛を深めながら行う奉仕にほかなりません。職業を語れないロータリアンはいない——私はそう考えております。本年度も、会員一人ひとりの仕事の価値を深く理解し合う地区イベント「今こそ仕事の話をしよう」を開催します。昨年度は定員八十名が満席となった人気企画で、内容を一層充実させて再び開催し、ロータリー歴の浅い会員も楽しさを実感できる場といたします。このイベントは会員以外の方もご参加いただけます。すなわち、会員増強の絶好の機会でもあります。他クラブの方とも気軽につながれますので、ぜひクラブの仲間をお誘い合わせのうえ、ご参加ください。地区の皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。



社会奉仕統括委員長
星 宏和(戸田RC)

ロータリーにおいての社会奉仕とは、ロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を実践することです。ロータリアンの皆様が、地域社会のニーズに合った、変化をもたらす奉仕活動を実践する。その奉仕活動の取り組みの中で、継続事業の見直しをして頂くとともに、新規社会奉仕事業へのチャレンジをして頂きたいと思っています。

当部門では、各ロータリークラブの社会奉仕活動が活性化するための、サポートをいたします。また、社会奉仕活動の立案や実際の活動事例を紹介します。

9月25日(金)には、3奉仕部門(職業奉仕・国際奉仕・社会奉仕)合同セミナーを行います。また、10月9日(金)には、昨年に続き、「サイバーセキュリティ」についての講演会を開催いたします。

昨年度に続き、各クラブで行われている社会奉仕活動の情報収集をして、その情報をデータ化して、

社会奉仕活動の参考にして頂きたいと思っています。



国際奉仕統括委員長
松本 有祐(大宮西RC)

2026-27年度、国際奉仕部門統括委員長を拝命いたしました松本有祐です。

国際奉仕は、クラブを活性化させ、会員一人ひとりが「ロータリアンで良かった」と実感できる活動だと考えています。案件の選定から視察、奉仕の実施、検証までの過程を通じて、地域や世界に持続可能なインパクトを生み出すとともに、私たち自身も多くの学びと感動を得ることができます。

一方で、海外とのつながりや言語、渡航への不安から、一步を踏み出せないクラブも少なくありません。地区では、海外クラブとのマッチングやグローバル補助金活用支援などを通じ、国際奉仕に挑戦しやすい環境づくりを進めてまいります。

韓国3750地区との交流をさらに深めるとともに、インド3000地区やフィリピン3700地区との連携も広げ、クラブ同士の新たなつながりを創出してまいります。

「持続可能なインパクトを生み出そう！」

この合言葉のもと、皆様とともに国際奉仕の輪を広げてまいります。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

ご挨拶



青少年奉仕統括委員長

鳥井 義兼(RC)

青少年奉仕統括委員会を代表し、ご挨拶申し上げます。本年度、青少年奉仕統括委員長を拝命いたしました鳥井義兼です。

青少年奉仕は、次代を担う若者一人ひとりの可能性を育み、地域や世界へと視野を広げる大切な奉仕活動です。当委員会では、インターアクト委員会、RYLA委員会、青少年交換委員会が互いに連携し、それぞれの特色を生かしながら、青少年の成長を支える機会の充実を図るとともに、地区内クラブの皆様が青少年奉仕活動に積極的に取り組めるよう、情報提供や事業運営への助言など、活動支援にも力を注いでまいります。

多様な価値観に触れ、友情を育み、奉仕の心を実践する経験は、若者だけでなく、私たちロータリアンにとっても大きな学びとなります。各クラブ様の皆様には、未来を担う青少年への温かいご支援と積極的なご参加をお願い申し上げます。

一年間、各委員会と力を合わせ、地区とクラブをつなぐ架け橋として、青少年奉仕のさらなる発展に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ロータリー財団統括委員長

橋本 洋子(大宮西RC)

ロータリー財団は、アーチ・克蘭フR1会長の提唱により1917年に誕生し、今年で109年目になります。Doing good in the worldこれこそが財団の真髄であります。アーチ・克蘭フは、最後の演説でクラブが今後多くの事が出来るように基金を設けようと提案しました。

一言で言えば、世界で良い活動をするには財源が必要な為、会員の皆様には地区目標をクリアするための寄付をお願いしています。

また今年度はPPSとPHSの推進メンバーを中心に各グループ別に担当者を決め、財団メンバー全員でPPS・PHS合わせて100名以上を目指して、邁進してまいります。

ポリオプラス委員会では世界ポリオデー(10月24日)における、地区内クラブの『ポリオ根絶イベント』実施に向け、支援を行います。

地区大会においてポリオイベントのフォトコンテストを行います。写真は、集合写真はNGでインパクトのある活動写真を期待しています。

ロータリー財団の国際教育プログラムにより意欲のある優秀な財団奨学生・平和フェローが、日本と世界との懸け橋になり貢献していることも財団の誇りです。

財団の寄付によって持続可能な奉仕事業ができることに誇りをもって活動して参ります。

ロータリー財団は、寄付して下さった個人・クラブに対して最大限の感謝の気持ちをお伝えしていく事をお約束します。

米山記念奨学統括委員長

若盛 主恵(松伏RC)



このたび、ロータリー米山記念奨学部門統括委員長を拝命いたしました。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度のテーマである「持続可能なインパクトを生み出そう(Create Lasting Impact)」を胸に、米山記念奨学事業の意義をより多くの会員の皆様にお伝えし、奨学生との交流を通じて、未来へつなげる価値ある活動を推進してまいります。

米山記念奨学事業は、単なる奨学金制度ではありません。世界各国から日本に学びに来た留学生を支援し、人と人との信頼関係を育み、日本と世界との懸け橋となる人材を育成する、ロータリーならではの国際奉仕活動です。奨学生が日本で得た経験や、ロータリアンとの交流を通して培った思いやりや価値観は、帰国後や日本で活躍する中で、感謝の気持ちを持ちながらそれぞれの地域や社会へと受け継がれていきます。その積み重ねこそが、平和と国際理解につながる持続可能なインパクトであると考えています。

私たちロータリアンにとっても、奨学生との出会いは多くの学びと気づきを与えてくれます。異なる文化や価値観に触れ、互いに理解を深めることは、ロータリーが大切にしてきた国際親善の精神を実践する貴重な機会です。奨学生期間に培った温かい絆は、卒業後は学友として様々な形で奉仕活動をし、感謝の笑顔を創り出してくれています。この感謝の連鎖こそがこの事業の大きな価値だと思います。

また、今年度は、米山記念奨学事業への理解をさらに深めていただくため、積極的な情報発信と交流の機会づくりに取り組んでまいります。そして、普通寄付・特別寄付ともに地区目標100%の達成を目標に掲げ、皆さまにお力添えをいただきながら、RI2770地区が一丸となって米山記念奨学事業を支えていきたいと考えております。一人ひとりのご支援が、未来を担う留学生の成長につながり、その先に世界へ広がる大きな成果を生み出します。世界が感謝の気持ちで溢れるよう皆様の温かいご理解とご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

ロータリー財団(7月集計分)



メジャードナー
(大口寄付者)
金子洋太郎
(戸田)



メジャードナー
(レベル2)
植野正裕
(戸田)



メジャードナー
(レベル1)
熊木雄太郎
(戸田)



マルチブル(8)
島田昌明
(川口むさし野)



マルチブル(7)
山内一浩
(浦和)



マルチブル(6)
大倉浩
(浦和ダイヤモンド)



マルチブル(6)
室征紀
(桶川)



マルチブル(5)
田邊好昭
(浦和ダイヤモンド)



マルチブル(4)
竹ノ谷裕子
(川口南)



マルチブル(4)
渋谷忠明
(杉戸)



マルチブル(3)
高橋和彦
(越谷)



マルチブル(3)
小坂橋好
(桶川)



マルチブル(3)
辻本恵太
(大宮)



マルチブル(3)
橋本真一
(浦和ダイヤモンド)



マルチブル(2)
高橋宜治
(浦和ダイヤモンド)



マルチブル(2)
高澤史生
(浦和ダイヤモンド)



マルチブル(2)
柳原隆志
(桶川イブニング)



マルチブル(2)
野並伸行
(浦和南)



マルチブル(1)
今井孝明
(鳩ヶ谷)



マルチブル(1)
大作貴洋
(杉戸)



マルチブル(1)
片山安茂
(浦和)



マルチブル(1)
小林哲夫
(桶川)



マルチブル(1)
今泉省吾
(桶川イブニング)



マルチブル(1)
新井雄二
(桶川イブニング)



マルチブル(1)
大塚信之介
(浦和南)



ポールハリス・フェロー
平岡絢也
(さいたま樺)



ポールハリス・フェロー
渡邊克巳
(杉戸)



ポールハリス・フェロー
天沼毅大
(桶川)



ポールハリス・フェロー
小嶋誠之
(浦和南)



ポールハリス・フェロー
小関範之
(浦和南)



ベネファクター
佐藤恵
(浦和ダイヤモンド)



ポールハリス・フェロー
近藤義一
(幸手)

※表記に誤りがありました
訂正して再掲載させていただきます



米山奨学会(7月集計分)



遠藤省吾
(大宮)



鈴木拓雄
(桶川)



落合喜彦
(杉戸)



前島昌文
(桶川)



仲川聡
(川口)



大竹敦
(大宮)



舟津操
(川口)

ロータリー新会員(7月集計分)



北西琢磨
(上尾西)
2026/3/4入会
㈱レベコホーム
不動産業



芳川裕一
(鴻巣イブニング)
2026/4/8入会
株式会社増田紙業
製造業



大郷徳子
(浦和北)
2026/4/8入会
株式会社ダイゴウ
化粧品小売業



秋山真樹
(越谷)
2026/5/10入会
株式会社おなまえ王国
通信販売業



小堤洋太郎
(越谷)
2026/5/10入会
株式会社ワンダフルドア
総合広告業



酒匂良平
(越谷)
2026/5/10入会
株式会社サコフ
内装工事業



井田貴
(越谷)
2026/5/10入会
株式会社丸福建設
不動産業



大倉正史
(さいたま新都心)
2026/5/11入会
あいおいニッセイ同和損害保険
損害保険



橋本哲也
(さいたま新都心)
2026/5/11入会
東京海上日動火災保険株
火災保険



永田淑江
(浦和北東)
2026/5/12入会
株式会社 三善千衣
食品加工・販売



五十嵐正行
(浦和北東)
2026/5/12入会
行政書士五十嵐法律事務所
行政書士



薄井章一
(草加松原)
2026/5/12入会
水戸証券株式会社 草加支店 川口営業所
証券業



松本貴士
(浦和中)
2026/5/14入会
株式会社アストライズ
総合建設業



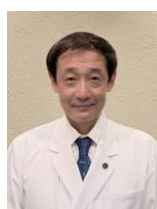
池田憲一
(大宮)
2026/5/16入会
武蔵野銀行大宮支店
金融業



田端祐一
(大宮)
2026/5/16入会
旭化成ホームズ株式会社埼玉大宮支店
住宅建築業



福岡顕史
(大宮)
2026/5/16入会
東海東京証券株式会社大宮支店
住宅建築業



鈴木慶太
(さいたま中央)
2026/5/21入会
医療法人三陽会 指野診療グループ
医師・理事長



石蔵康平
(さいたま中央)
2026/5/21入会
株式会社タグポート
不動産業



能條浩之
(浦和)
2026/5/29入会
戸田建設株式会社関東支店
総合建設



梅田大輔
(浦和)
2026/5/29入会
株式会社三越伊勢丹伊勢丹浦和店
百貨店



本橋岳晴
(浦和)
2026/5/29入会
株式会社サンパワー
内・外装工事



関末江
(幸手)
2026/5/31入会
喜光工業株式会社
土木建設業



栗原麻子
(浦和南)
2026/6/1入会
個人事業主



嶋廻由希子
(大宮南)
2026/6/2入会
株式会社高島屋大宮店
百貨店



西裕三
(大宮南)
2026/6/2入会
YKKAP株式会社埼玉支部
住宅設備



宇賀神勇太
(浦和北東)
2026/6/2入会
合同会社Sunfroworks
防水業



知久光輝
(鴻巣イブニング)
2026/6/5入会
株式会社知久工業
建設業



木本貴之
(大宮西)
2026/6/8入会
木本建設株式会社
不動産賃貸業



菊地貴志
(大宮東)
2026/6/10入会
株式会社ウィック保険サービス
保険業



清村雅人
(浦和)
2026/6/19入会
みずほ証券株式会社
証券業



江崎俊平
(越谷東)
2026/6/25入会
株式会社GRC百貨店
不動産業



瀬川智広
(浦和)
2026/6/25入会
C&R株式会社
ビルメンテナンス



永井孝寛
(戸田)
2026/6/29入会
(有)永光商事
不動産管理



瀧川健太
(川口)
2026/6/30入会
クリイト株式会社
保険業

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。



森田康之
(川口北)
2026年4月30日
享年85歳



土橋藤男
(蓮田)
2026年5月19日
享年96歳



宮澤忠昭
(浦和)
2026年6月23日
享年82歳



二度目の奇跡へ：ポリオ根絶という人類の使命 腕に残る「勲章」と、人類の勝利

第1地域 ポリオ根絶コーディネーター(EPNC) 松田 英郎（富良野RC）

1980年、人類は医学史における最大の宿敵の一つであった天然痘を、この地球上から完全に根絶しました。私と同世代の方々であれば、自らの腕に刻まれた「種痘」の跡を覚えているはずです。小さな針がついたスタンプを押し、皮膚を傷つけてワクチンを塗り込むその手法は、決して洗練されたものとは言えません。化膿し、瘢痕として残るその跡は、現代の審美的な価値観からすれば「コスメチック」ではないかもしれません。しかし、その跡こそが、かつて人類を震え上がらせた死の恐怖から私たちが解放された証であり、人類が英知を結集して勝ち取った「勝利の勲章」でもありました。

天然痘の根絶から45年が経過しようとしている今、私たちは二番目のウイルス、ポリオ（小児麻痺）をこの世から消し去ろうとする歴史的転換点に立っています。



ここでもう一人のポールを紹介します。

かつてポリオは、世界中で子どもたちの未来を奪う恐怖の象徴でした。その記憶を呼び覚ます装置が「鉄の肺」です。かつてサンディエゴで開催され世界協議会に参加した際、私は会場に展示されていたその実物を目にしました。学生時代に文献で見て「こんな大きなタンクの中に人を閉じ込めるのか」と驚愕した記憶が鮮明に蘇りました。現在の人工呼吸器の先駆けとなったこの巨大な装置は、かつて日本でも流行時に導入されていました。

2024年 3月、この鉄の肺の中で70年以上を過ごした「ポリオサバイバー」のもう一人のポール、ポール・アレクサンダー氏が亡くなりました。彼は感染によって呼吸筋が麻痺しながらも、不屈の精神で弁護士資格を取得し、社会復帰を果たしました。彼の功績は称賛に値しますが、同時に、彼が歩んだ一生がいかに険しく、過酷な闘いであったかを思わずにはいられません。ポリオによる弛緩性麻痺は、四肢の自由を奪うだけでなく、呼吸という生命の根幹をも脅かします。その重症度は個体の免疫力や抵抗力によって様々ですが、一人の人生をこれほどまでに縛り付ける病を、私たちは決して看過してはならないのです。

ポリオの恐ろしさは、その潜伏性と広がり速さにあります。実際に麻痺を起こすのは感染者の0.1%から1%程度に過ぎません。しかし、残りの99%以上は症状が出ない「不顕性感染」であり、本人が気づかぬうちにウイルスを排出します。つまり、一人の有症状患者が発生したとき、その背後にはすでに1,000人以上の感染者が潜んでいることを意味します。

ウイルスは人間の体内でしか増殖できません。だからこそ、下水道などの環境サーベイランス（監視体制）が極めて重要となります。2024年、パレスチナ自治区ガザ地区において戦闘を一時中断してまでワクチン接種が行われたのは、劣悪な衛生環境下で排出されたウイルスが、無防備な子どもたちの体内に入る連鎖を断ち切るためでした。たとえ戦火の中にあつたとしても、ウイルスは国境も思想も関係なく牙を剥きます。ワクチン接種は、今この瞬間も子どもたちの命を守る唯一の盾なのです。

幸いなことに、ポリオウイルスは抗原性の変化が少なく、かつて日本を救ったワクチンが今なお有効です。しかし、課題は山積しています。これまで主流だった生ワクチンは、稀にワクチン由来のポリオを発症させるリスクを孕んでいます。一方、そのリスクを排除した「不活化ワクチン」を世界中に届けるには、莫大なコストと物流網が必要で現実的ではありません。



また、ポリオ根絶は単なる医療の問題に留まりません。安全な水の供給、徹底した公衆衛生教育、そして何よりも安定した社会基盤が必要です。ウイルスを消し去ることは、その国や地域の生活水準を底上げすることと同義なのです。
2031年まで根絶目標が延長されましたが、これは決して敗北ではありません。最後の一步をより確実に、一人の取りこぼしもなく踏み出すための「決意の再設定」とであると捉えるべきでしょう。

かつて日本もポリオの流行に苦しみ、当時の母親たちが立ち上がり、生ワクチンの緊急輸入を実現させた歴史があります。現在の日本は、全くワクチン由来のポリオが発生しない不活化ワクチンへと移行していますが、この平和な日常は先人たちのあらがうような努力の上に成り立っています。

ロータリークラブをはじめとする世界ポリオ根絶イニシアチブ(GPEI)が担う役割は、もはや単なる医療支援の枠を超えています。それは、グローバル化の中で失われつつある「他者への献身」を呼び覚まし、地球上のどこに生まれても「呼吸する自由」と「歩む権利」を保障するための平和運動です。ただ、GPEIに対してイギリス政府が2026年以降直接的な支援を中止したという報告は極めて残念と言うしかありません。

かつて私が開業した1991年、バブル崩壊や湾岸戦争による資材高騰という逆風の中、先人たちは日本の未来を守るために汗をかいてきました。今、私たちが次世代に残すべきは、卑屈感ではなく、世界を救ったという確かな「プライド」です。

ポリオという言葉が歴史の教科書の中にだけ存在する世界を。その実現のために、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。





第2地域 ロータリー会員増強コーディネーター 若林 英博（東京麹町RC）

突然ではございますが、「コーディネーターニュース」は、今期で一区切りとなり、今後は『ロータリーの友』へ引き継がれる予定と伺っております。前任の野口英一RMCから引き継ぎ、2025年8月号から本号まで、原稿の取りまとめを担当いたしました。この一年間、ご多用の中で執筆にご協力くださいました地域リーダーの皆さまに、心より御礼申し上げます。お寄せいただいた貴重なご意見や実践例は、読者にとって大切な情報として積み重なり、今後のクラブ活性の一助となるものと確信しております。

さて、4月のクラブ活性化セミナーでは、「会員がやめないクラブづくり」～みんなで語り合おう～をテーマに、退会防止に焦点を当てた参加型プログラムを実施しました。我々RMCは初日の午後のセッションを担当し、基調プレゼンテーション、分科会、まとめまで、年明けから準備を重ねてまいりました。

特に大切にしたのは、「退会は“届”の話ではなく、心の中で起きている“水位”の話である」という視点です。退会届が出るずっと前から、会員の心には不満、違和感、疲れ、孤立感などが少しずつたまっていくのではないかと。その水位に、私たちはどれだけ気づけているのかを共有しました。

ブレインストーミングでは、「会員のコップの水は、どんな時に増え、どんな時に減るのか」を話し合い、シナリオ演習では、役割や期待、周囲の言葉、小さな出来事が水位に与える影響を考えました。個人ワークでは、「防げた退会・防ぐべきだった退会」を振り返り、各地区で活用できる気づきや実践例を共有しました。

会員増強と退会防止は、両輪です。新しい会員を迎えるだけでなく、今いる会員が価値を感じ、居場所を持ち、ロータリー活動が続けたいと思える環境づくりが欠かせません。退会防止とは、退会届が出てから引き止めることではありません。会員一人ひとりの水位に早く気づき、声をかけ、名前を呼び、役割を託し、感謝を伝え、「あなたが必要です」という思いを届けていくことだと思います。今回の内容が、もっと元気なクラブづくりにつながれば幸いです。

なお、当日の資料やデータは、JAPAN PORTAL SITEに掲載されております。ぜひ各地区でご自由にご活用ください。

あわせて、本誌の発行を支えてくださいました国際ロータリー日本事務局の皆さまにも、厚く御礼申し上げます。



ARMCの黒川伸一さん(KUROCHAN)、樋口明さん(GUCCI)、白鳥敬日瑚さん(Swan)には、ロータリー研究会、活性化セミナーのいずれにおいても、準備から当日の寸劇まで大変お世話になりました。皆さまと一緒に笑いながら取り組めた時間は、私にとって大切な思い出です。心強い仲間に出会えたことに、心より感謝申し上げます。

なお、黒川さんは2025-26年度をもってARMCをご卒業されます。これまで本当にありがとうございました。





地域リーダーの醍醐味について

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 瀧 満（中津RC）

RPICを拝命し、あっという間の1年が過ぎました。第3地域のガバナー、多くのクラブの皆様に支えられ、私のロータリーライフに新たなページを刻むことができました。任期はあと2年ありますが、地域リーダーの醍醐味をお伝えし、この役職を今から引き継いで頂く事になるロータリー会員の参考になればと考え、この紙面を使わせて頂く事にしました。



《地域リーダーの醍醐味》

1. Global Support Seminar (GSS)

エバンストンのワン・ロータリー・センターでの研修は世界各地から集まった地域リーダー約50名が毎日4コマのセッションを通じて、ロータリーの本質を掘り下げてゆきます。ロータリーの中核的価値観を体現できる最高のセミナーです。

2. ロータリーを俯瞰できるポジション

エバンストンで経験した世界のロータリー会員との交流で、クラブや地区の視点を越えた広い視野でロータリーを見る事が出来るようになりました。

3. 日本のロータリーの運営に携われる幸運

クラブや地区のことしか知らなかった私にとって、日本のロータリー会員全体のために日々尽力されているRI理事他多くの役職のご苦勞を目の当たりにし、そのお手伝いができることに誇りを感じるようになりました。

4. クラブ、地区を超えた交流

各地区、各クラブのセミナーや地区大会での講演に招かれ、私の今までの経験やGSSで研修して来た内容を伝えてゆく過程で生まれた全国的なロータリー会員とのネットワークは私の人生を大いに豊かにしてくれました。



最後に、ロータリー公共イメージコーディネーターとしての活動の1コマを紹介させていただきます。掲載の写真は、2720地区で行われました“ポリオ根絶カラオケチャリティー大会”に参加した一コマです。皆様のクラブでの積極的なイメージアップ活動を期待しております。





1 台北国際大会 ブース出展&分科会開催報告

6月13日から17日まで、国際ロータリー年次大会が台北で開催されました。米山記念奨学会としては2004年の大阪、2012年のバンコク、2016年のソウルに続き「友愛の家」にブースを出展するとともに、2016年以来、10年ぶりに分科会を開催しました。今大会には地元・台湾の米山学友やよねやま親善大使らがブースに立ち、世界各国のロータリー会員に当事業のPRを行いました。その様子をご紹介します。

【6月13日～17日 ブース出展】

ブースには連日、多くのロータリー会員が足を運んでくださいました。ブースの外まで人があふれる時間帯もあり、大盛況となりました。台湾の米山学友とよねやま親善大使を中心に、来場いただいた方に対し、メッセージを書いた記念撮影や世界地図へのピン刺し、今大会限定の記念バッジの贈呈を行いました。最終的には40か国以上の国と地域からブースにご来場いただいたのみならず、数多くのメッセージを残していただきました。多くの方のご来場に心から感謝いたします。



【6月12日 台湾米山学友会主催 歓迎懇親会】

台北国際大会の開会に先立ち、台湾米山学友会が歓迎懇親会を開催。日本からも多数のロータリー会員が集まったほか、インドネシア出身で、今年度から米山学友として4人目のガバナーとなるラスマナ センドリウスさん（1992-94/長岡西RC）や、分科会に登壇する4人の学友、よねやま親善大使らが参加し、総勢107人が出席しました。



【6月15日 分科会】

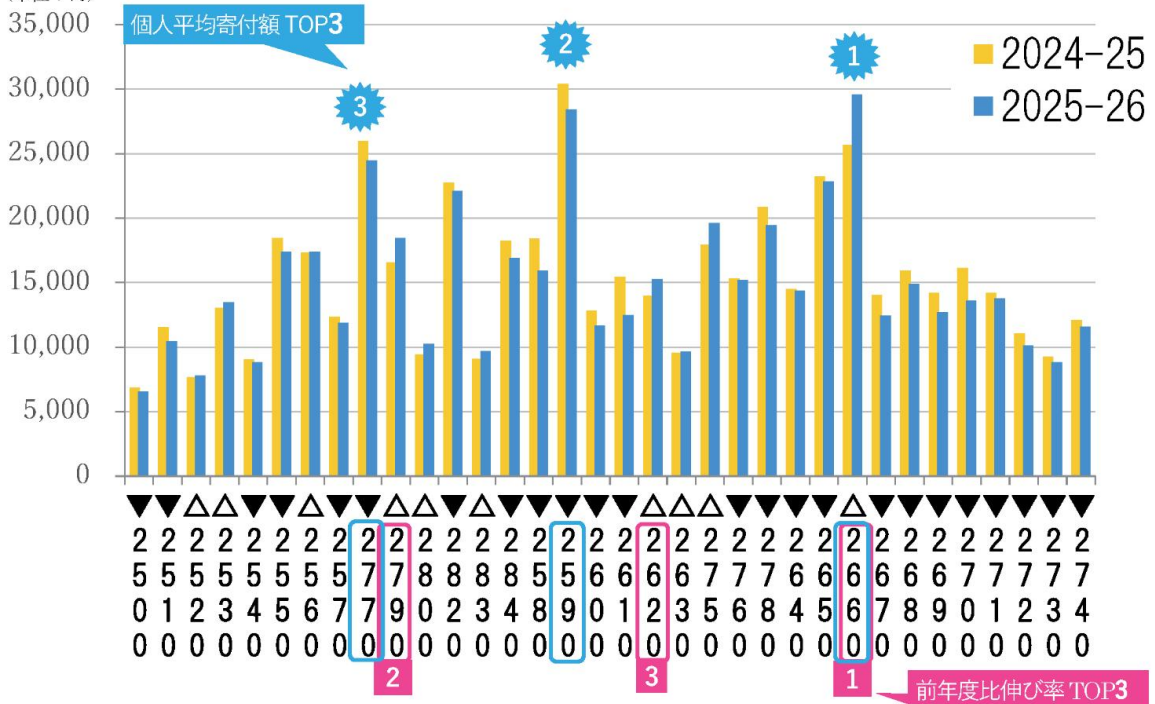
「会員と米山学友が支える永続的なつながり」というタイトルで、2016年以來、2度目となる分科会を開催しました。林岳毅さん（2000-01／札幌清田RC）、フィンティミーハンさん（2001-02／金沢みなとRC）、朴貞子さん（2006-08／岸和田RC）、バンバット トゥメンデルゲルさん（2014-15／大阪東RC）の4人が登壇。会場に参加したロータリー会員からは、「米山学友の話を聞いて、実際にどのような活動をしているのか理解できた」「新たな発見があった」といった感想が聞かれました。



2 2025-26 年度寄付金結果

2025-26年度の寄付金は約12億9,500万円となりました。前年度比2.7%減（普通寄付金:0.1%増、特別寄付金:3.9%減）、約3,500万円減少しました。寄付総額が13億円を下回るのは14年ぶりとなりますが、当年度予算に対しては約1,500万円上回ることができました。ご寄付いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。2026年度も引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

（単位：円）



個人平均寄付額 TOP3 【全国平均：15,628円】

① 第2660地区：29,595円 ② 第2590地区：28,432円 ③ 第2770地区：24,448円

前年度比伸び率 TOP3

① 第2660地区：115.2% ② 第2790地区：111.4% ③ 第2620地区：109.3%

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3F

Tel：03-3434-8681 Fax：03-3578-8281

E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp

URL：https://www.rotary-yoneyama.or.jp/

編集担当：長尾(ながお)

3 理事会開催 — 前年度と同様の 940 人採用 —

6月1日、第50回理事会が都内会場にて開催され、全国から理事29人、監事2人が出席しました。今回の理事会では、議長の若林紀男理事長の進行の下、最初に日本人海外留学支援検討タスクフォース、中長期ビジョン検討タスクフォースの両座長から最終報告がありました。主な議案は、2027学年度奨学生採用数、2027学年度募集要項、2026年度事業計画案、「公益目的

事業の種類及び内容」の変更、資産運用方針案、収支予算案などが審議され、各担当理事、事務局長からの提案説明を経て、原案通り承認されました。これにより、2027学年度の奨学生採用数は、前年度と同じ940人（枠）とすることなどが決定しました。また、「日本人支援の方向性の件」は活発な意見交換が行われ、次回理事会で継続審議することとなりました。

4 第2回 次期地区米山奨学委員長セミナー開催

6月2日、2026-27年度地区米山記念奨学委員長を対象とする第2回セミナーを都内会場で開催しました。

午前の部は、若林紀男理事長の挨拶から始まり、井原實副理事長の講話の後、学務関連について事務局から説明を実施しました。その後、第2550地区田島良久委員長から危機管理について事例を発表いただき、事務局から表彰制度

一部改定のお知らせについてご案内しました。午後の部では、事務局から広報・学友関連について説明を行った後、4グループに分かれ、「より魅力的な奨学金制度にするには」という共通テーマでディスカッションと各グループからの報告が行われ、質疑応答を経て、神野重行常務理事の講評で締めくくられました。

5 スリランカに届いた「日本の袋麺」で町が熱狂

スリランカ米山学友会創立10周年記念式典を翌日に控えた5月31日、北西部にある小さな町、カッカパリヤでは心温まる交流イベントが行われました。

会場は、米山学友のスチッタ グナセカラさん（第2代よねやま親善大使／2720Japan O.K. ロータリーEクラブ会員）が経営する日本語学校です。同校は2009年に設立され、これまでに500人以上が日本語を学び、両国をつなぐ架け橋として歩みを重ねています。

今回、同校の31期生が「日本のラーメンをスリランカで振る舞いたい」と発案。第2720地区のロータリー関係者や、当財団の大久保章宏常務理事が手分けをして袋麺500食・割り箸500



膳を現地へ届けました。

当日は炎天下の中、3時間以上の待機列ができるほどの人気ぶりで、あまりの反響に紙の器が不足する場面もありましたが、最終的には約5,000人に提供することができました。

立ち会った大久保常務理事は「日本では当たり前にある袋麺が、これほどの感動を生む光景を目の当たりにし、ロータリー活動の意義をあらためて実感した」と振り返ります。来年の目標は10,000人とのことで、今後の広がりが楽しみです。



配布を待つ長蛇の列

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281

E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp

URL : <https://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

編集担当：長尾(ながお)

2025～26年6月 会員数報告

クラブ名	2025年 7月1日 現在		当月末 会員数		増減	目標 純増	通算 入会
		内 女性		内 女性			
浦和	101	4	98	2	-3	5	12
浦和東	99	15	99	15	0	3	6
浦和南	24	2	24	3	0	3	2
浦和中	33	5	31	4	-2	3	1
浦和ダイヤモンド	21	3	22	3	1	4	2
第1グループ計	278	29	274	27	-4	18	23
浦和北	57	4	58	6	1	10	3
さいたま中央	41	2	42	1	1	10	3
さいたまシティ	21	1	23	3	2	5	3
浦和北東	42	3	42	3	0	5	3
さいたま新都心	33	0	34	1	1	5	3
第2グループ計	194	10	199	14	5	35	15
大宮	55	2	50	2	-5	5	7
大宮南	35	8	35	8	0	2	4
大宮中央	34	4	36	5	2	18	2
大宮シティ	39	4	38	4	-1	8	2
さいたま樺	30	4	24	4	-6	3	1
さいたま大空	13	5	15	7	2	2	2
第3グループ計	206	27	198	30	-8	38	18
大宮西	113	17	115	18	2	8	9
岩槻	25	3	23	3	-2	5	1
大宮東	37	2	38	2	1	5	3
岩槻東	21	3	20	3	-1	3	0
大宮北東	8	1	9	1	1	4	1
第4グループ計	204	26	205	27	1	25	14
上尾	33	0	32	0	-1	3	0
鴻巣	21	4	18	4	-3	2	0
桶川	20	0	19	0	-1	2	1
上尾西	31	3	30	3	-1	3	3
北本	5	1	6	1	1	3	1
上尾北	20	0	24	0	4	3	5
鴻巣水曜	25	0	25	0	0	5	4
桶川イブニング	24	3	26	4	2	3	2
鴻巣イブニング	21	2	28	4	7	5	7
第5グループ計	200	13	208	16	8	29	23
春日部	26	2	26	2	0	2	1
杉戸	33	3	31	4	-2	3	1
春日部西	26	1	25	1	-1	3	1
春日部南	27	0	24	0	-3	3	1
春日部イブニング	41	2	43	2	2	4	3
第6グループ計	153	8	149	9	-4	15	7

ローターアクトクラブ

クラブ名	7/1会員数	当月末	増減	クラブ名	7/1会員数	当月末	増減
大宮	1	2	1	大宮南	11	10	-1
浦和北	12	17	5	蓮田	5	5	0
獨協大学	4	4	0	川口/鳩ヶ谷武南	11	18	7
大宮東	3	2	-1	戸田中央看護専門学校	123	133	10
文教大学	5	6	1	川口モーニング	7	6	-1
共栄大学	54	58	4	大宮西	6	15	9
川口	13	12	-1	ローターアクト計	255	288	33

クラブ名	2025年 7月1日 現在		当月末 会員数		増減	目標 純増	通算 入会
		内 女性		内 女性			
幸手	22	1	16	2	-6	3	1
蓮田	43	3	42	3	-1	3	0
久喜	50	7	49	7	-1	3	2
幸手中央	13	1	13	1	0	1	0
第7グループ計	128	12	120	13	-8	10	3
越谷	92	6	102	8	10	5	12
越谷南	37	4	40	5	3	6	7
越谷北	48	2	48	2	0	3	4
越谷東	74	5	77	4	3	5	6
第8グループ計	251	17	267	19	16	19	29
八潮	23	2	23	2	0	2	1
八潮イブニング	10	0	0	0	-10	3	0
八潮みらい	17	1	16	1	-1	2	1
草加松原	35	3	33	2	-2	9	3
草加シティ	17	6	0	0	-17	5	0
第9グループ計	102	12	72	5	-30	21	5
三郷	30	4	28	4	-2	2	4
三郷中央	19	2	16	2	-3	3	0
松伏	18	2	17	2	-1	2	1
吉川中央	14	3	16	3	2	3	3
第10グループ計	81	11	77	11	-4	10	8
川口	88	18	90	17	2	5	10
鳩ヶ谷	14	0	14	0	0	10	0
川口東	23	3	20	1	-3	6	1
川口/鳩ヶ谷武南	22	3	25	3	3	2	4
川口モーニング	30	2	32	3	2	5	7
川口南	15	4	15	4	0	2	1
川口シティ鳩ヶ谷	6	2	6	2	0	2	0
第11グループ計	198	32	202	30	4	32	23
戸田	50	7	57	8	7	10	9
蕨	15	2	16	2	1	2	2
川口西	11	0	10	0	-1	2	0
戸田西	18	1	20	0	2	2	5
川口北	28	1	29	4	1	5	4
川口中央	11	1	10	1	-1	1	0
川口むさし野	19	4	18	4	-1	2	0
第12グループ計	152	16	160	19	8	24	20
地区合計	2147	213	2131	220	-16	276	188
参考：2025年当月地区合計	2200	205	2227	218	27	184	188

ロータリークラブ数	66RC
2026年当月末会員数	2131人
ローターアクトクラブ数	13RAC
2026年度当月末会員数	288人
RC+RAC会員数	2419人

